学園だより

No60
令和7年5月

発　行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原10844
電話（082）429-0351

新たな年度に向けて
～変わること、変わらないこと～

園長　川上　誠司

新年度の登校が始まる時期に桜が満開になりました。広島学園のある場所は自然が豊かで、四季折々の風景を楽しむことができます。

桜もそうですが、鶯の鳴き声を聴きながら春の到来を感じ、この一年間が子どもたちにとって実り多いものになるようにと祈りつつ、子ども達をしっかりと支援していかなければと決意を新たにしているところです。

全国の児童自立支援施設に共通する昨今の話題として、集団生活の中で個別の支援をどのように両立させていくかということがあります。入所される子どもさんのニーズは多様化しており、集団生活の中で学び成長していくだけではなく、個別の状況に応じた支援が求められています。職員も変わりゆく状況の中で、これまでの支援方法に加え、新たなスキルを学ぼうと真剣に取り組んでいます。園内で定期的に個々の子どもの支援内容の検討を行いながら、子ども達の良いところを伸ばし、子ども達が自分の考え方の傾向や、行動パターンを理解していけるよう取り組んでいます。自己理解という言葉で言い表していますが、一人で乗り越えていけることばかりではない中で、自己を理解し、他者に相談するなど、誰かを頼って、正しい方法で解決する方法を身につけて退園してほしいという思いで日々支援しています。

広島学園での生活が落ち着いてくると、時期をみて家庭への外泊をします。外泊で成長した姿を見て褒めて励ましてもらい、良い表情で帰園してきます。失敗してくることもありますが、それが課題を再確認して解決に繋げていくためにも大切なことです。また、入園するまでの生活の中で親子がお互いに感じていたことを話し合う機会もあります。なかなか面と向かって思いを伝え合う機会はないですが、外泊の目的として入れることで、取り組みやすくなっていると感じます。お互いの気持ちをわかり合うことで退園後の生活の中に活かしていけると思っています。

昨年度退園した子ども達が電話で近況報告をしてくれますが、順調に生活している様子を聴き、安心しているところです。併設の東広島市立もみじ小学校・もみじ中学校では、少人数の授業を活かし、子どもたちの状況に応じた丁寧な学習支援が行われ、学力も向上しており、そのことも退園後の自信に繋がっています。中には必ずしも順調ではない報告もありますが、励まし、助言しながら、広島学園での支援がどこかで役に立ってくれればと願っています。

変わっていく必要性とともに、これまで積み重ねていた支援の歴史を大事にしています。状況は変われど、理念である、”寄り添い・心を通わせ・諭し・丁寧に育て直す”～『ＷＩＴＨの精神』は変わることはありません。これからも子ども達に寄り添い、子ども、保護者、関係者の皆様から信頼が得られるよう職員一同誠実に行動して参りますので、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願いします。

学園行事

◆後期を振り返って

中二　女子

後期を振り返って気づいたことが三つあります。一つ目は、イライラしたときにクールダウンに行く回数が増えたことです。前期は、イライラしたことや不安な気持ちを自分の中でため込みすぎて、自分の気持ちのコントロールができなくなり、物にあたったり、寮の先生や併設校の先生にあたってしまっていました。しかし、後期に入ってからは、前期の失敗を活かし、担当の先生と三ヶ月ごとの振り返りや報告活動を使って、たくさん対策を立てました。そのおかげで自分の今の状況を自分で理解することができるようになり、クールダウンも使えるようになりました。二つ目は、人前で教科書を読んだり、自分の感想を発表したりすることが少しできるようになったことです。前期は、自分の感想や教科書に載っている漢字の読みを間違えることが怖くて発表するたびに胸が苦しくなっていました。後期に入ってからは、間違いをポジティブに考えるようにしました。このようにポ

ジティブに考えられるようになったのは、親や寮の先生、併設校の先生のおかげだと思っています。三つ目は、自分の思いを最後まで伝えられるようになったことです。前期では、指導員室に行って伝えようとはするけれど、自分の思いが上手く話せない自分が嫌で、途中で指導員室を出てしまうことがありました。後期では、上手く話せない自分を責めるのではなくて、時間をかけてでも話すということを意識して、相談しに行くことを頑張りました。

これからの生活で頑張りたいことは、二つあります。一つ目は、クールダウンの時間を意識することです。その理由は、落ち着かないときにクールダウンをする回数は増えたけど、決められた時間を意識することはまだまだだと思ったからです。時間を意識しないことによるデメリットは、クールダウンの時間が長くなることで、自分の中でネガティブな気持ちが大きくなってしまってしんどくなってしまうことです。だから、しんどくならないように上手くクールダウンを使っていきたいです。二つ目は、イライラがたまらない内に報告活動に行くことです。その理由は、イライラがたまると自分の気持ちのコントロールができなくなってしまったり、先生に反抗してしまったりして、周りの人を困らせてしまうからです。だから、イライラがたまらない内に報告活動を使っていきたいです。

最後に、これからは失敗したことを活かして生活しようと思いました。そして、自分の目標を忘れず、達成できるように頑張ろうと思います。

◆前期の決意文

中三　男子

僕は今年から中学三年生です。中学三年生になると、変えなければいけないことや当たり前にできるようにしなければいけないことがたくさんあります。それは、大きく分けて四つあります。一つ目は「忘れ物を減らす」です。忘れ物は、僕が学園に入所してからずっと悩んでいることです。忘れ物は信用をなくすことにもつながるし、忘れると授業についていけなくなったり、しなければいけないことが出来なくなったりします。この理由から「忘れ物を減らす」という目標にしました。二つ目は、悪い方へ周りを引っ張るのではなく「良い方へ周りを引っ張る」です。僕はここへ来る前に、仲が良かった友人を悪い方向へ引っ張ってしまいました。これは寮の中でも一緒で、寮生を悪い方向へ引っ張っていました。だからこのままではいけないと思いました。僕は「影響力がある」と先生から言われています。なので、その影響力を良いことに使えば、寮や部活で良い雰囲気を作れると思ったのでこの目標にしました。三つ目は「一つ一つの行動に責任を持つ」です。三年生は、学園では最上級生です。その最上級生が良くないことをしていると、下級生たちに良くない影響を与えてしまいます。だから最上級生という自覚を持って一つ一つ行動していけば、皆の手本になれると思ったのでこの目標にしました。四つ目は「受験生への準備をスタートする」ことです。中学三年生になると、高校進学を考えている人は勉強を頑張り始めたり、色んなことを調べたりすると思います。僕も高校に行きたいと思っているので、受験勉強を始めたり、志望校のことを調べたりしないといけません。併設校での一日一日が、受験にも結びついてくると思います。特に僕は、勉強がとても苦手です。だから、諦めずに頑張ることが必要です。諦めずに頑張ることは、これからの生活でずっと使えます。これらの理由からこの目標にしました。

この四つの目標をしっかりクリアしていって、自分の成長に大きく繋げていって、最上級生という自覚を持って行動していきたいと思います。

◆人事

広島学園

園　長　川上　誠司

副園長　山根　真明

もみじ小・中学校

校　長　玉里　周二

教　頭　山岡　朱美

《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

（ https://www.pref.hiroshima.lg.jp/sisi/hiroshimagakuen/ ）